

## ～活動団体等の取組み～

当ネットワークに登録する団体等の活動現場を訪問し、活動の見学や取組み取材しました。

### ■庄内学園×はまなご環境ネットワーク

浜名湖の地元・庄内学園の小学2年生が、アマモを活用した野菜栽培に協力してくれました。今年で4回目になります。

ネットワークメンバーが畑作りや種まきの指導をし、宮本肥料店の「アマモミ堆肥」を使い、聖護院大根を育てました。作業の前に浜名湖のアマモや堆肥に活用することを説明した時には、アマモを知っている・アマモは臭いという話をしてくれた子どももいました。自宅の目の前が浜名湖岸という子どもは打ち上げられたアマモを片付けたことがあるという話をしてくれました。

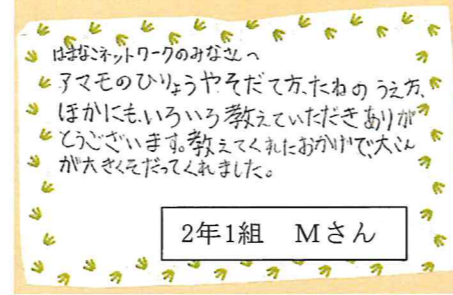
大きく育った聖護院大根はおいしく食べてもらうことができ、お礼のメッセージもいただきました。



校舎南側花壇への種まき



順調に育った聖護院大根



お礼のメッセージ  
2年1組 Mさん

### ■浜松地域資源活用研究会×浜松里山竹クラブ

浜松市内の里山で増え続ける放置竹林の対策として、市民参加による竹林整備や企業との連携の仕組みづくりに取組み、竹の資源を農業や畜産に活用し新しい商品を創り出す支援をしています。平成29年度は以下の事業に取組む計画があるそうです。

#### ■里山竹林の整備体験ワークショップ

竹林の管理を行う市民団体「浜松里山竹クラブ」や企業と連携し、一般の親子が参加し竹林の整備及び竹資源の活用する体験学習会を2回開催予定。

#### ■竹資源活用フォーラムの開催

竹資源の管理活用する市民団体、企業、行政を集め、竹林の現状や各地の竹林管理・活用の情報を交換し、今後の竹資源の活用策などを探るフォーラムを11月頃に開催予定。

#### ■竹を活用した料理を楽しむ会（交流会）



竹をパウダー状にした「竹粉」を堆肥や家畜のエサとして育てた食材を使い、ホテルとの協働で楽しい食の交流会を開催し、竹を活用した商品の展示会を予定。

【問合せ】

☎053-455-0220 E-mail: hama-shigen@t-k-k.co.jp

竹の活用＝ホテルとの協働で食の交流会



竹林整備の市民団体の支援

【はまなご環境ネットワーク事務局から】団体のイベントや活動情報をお寄せください。

E-mail info@shizuoka-t.net 電話 053-458-3480 FAX 053-455-0328  
ブログ http://kankyo.hamazo.tv/ FaceBook こちらのQRコードを読んで下さい



はまなご環境ネットワーク 広報誌

# はまなご環境通信

発行／はまなご環境ネットワーク

発行日／平成29年3月6日

事務局／NPO法人地域づくりサポートネット

浜松市中区常盤町133-13 TEL053-458-3480

Eメール info@shizuoka-t.net

第29号

## アマモを活用した野菜栽培

浜名湖の湖岸に打ち上げられ“困りもの”になっているアマモを堆肥にして、浜松市西区村楠町の耕作放棄地を活用した畑で大根を栽培しました。

夏に湖岸で回収したアマモを畑でねかせて塩抜きをしたものを畑に漉き込む作業から始め、機械を使っての畝づくり、ビニールに種まき用の穴をあける作業など、子どもも大人も楽しみながら作業を行いました。

最初はうまくできなかった作業もNPO法人むらちゃネットメンバーの指導のおかげで、だんだんと慣れ、子どもたちも積極的に作業をしてくれました。

一つの穴に大根の種を3粒ずつ蒔きました。これは発芽しない種があったり、育ちの悪い苗を間引いたりするためです。育ちの良い苗に栄養をいきわたらせて大きく育てます。



湖岸に打ち上げられたアマモ



アマモを畑に



種まき用の穴をあける作業



種まきの仕方の指導

毎年、種まき後に台風の被害を受けていましたが、今年は被害もほとんど無く、200本以上の大根を収穫できました。野菜が嫌いな子どもも、自分で育てた野菜は喜んで食べるという参加者もいて、このような体験は子ども達には貴重な機会となっています。

大根の収穫作業は初めてという子どももいましたが、大きな大根を探して楽しそうに収穫し、そんな姿を撮影する光景が多くみられました。

自然環境や収穫した大根を食べる人のために無農薬で栽培したかったのですが、虫が多いため消毒をしました。周りの畑でも消毒は行われており、完全な無農薬栽培は難しいのが現状です。また、自分たちの畑だけ消毒しないことで、増えてしまった害虫が周りに影響を及ぼすこともあります。

近年では、農業用の肥料が浜名湖の水質に影響を及ぼしているということも言われています。このため、自然環境を守り・改善していくには環境保全団体だけでなく、農業者・商業者・一般の方などの多様な主体が協力していくことが必要であり、浜名湖の豊かな自然環境を守る活動だけでなく、環境保全についての啓発も重要になってきています。



ほのぼのとした時間



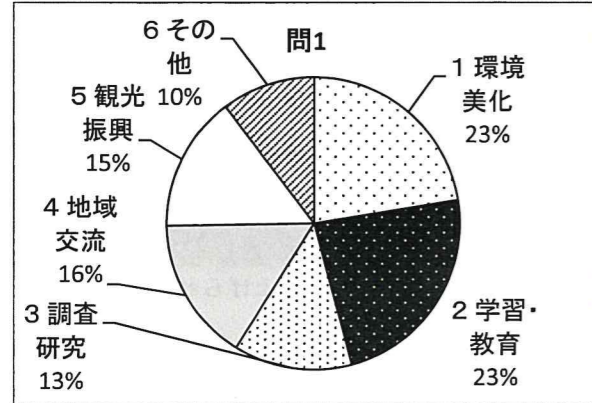
収穫の記念撮影

# 平成28年度 浜名湖環境保全活動アンケート結果（速報）

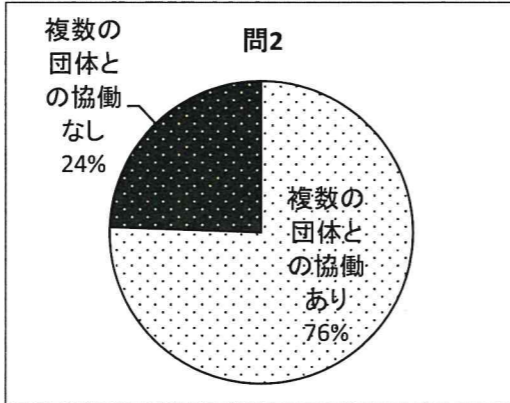
静岡県が浜名湖の環境保全活動に関する現状やニーズを把握するためにアンケートを行いました。アンケートの中で、他団体との連携などに関するご意見も聞きました。

- 実施 平成29年1月末～2月15日（郵送及びEメール等により発送）
- 対象 浜名湖の環境に取り組む市民活動団体、企業、各種団体（環境ネットワーク会員含む）
- 発送 71団体（行政機関は除く） ○回答 46団体（回収率64.8%）

## 問1 活動内容（浜名湖に関連するもの）



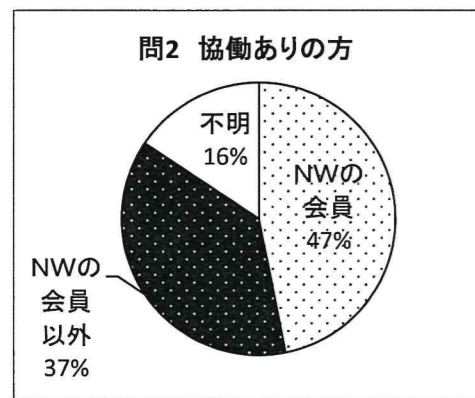
## 問2 複数の団体との協働の有無



### 【活動の具体的内容（主なもの）】順不同

子供への環境学習・環境教育／水質浄化活動／水質調査／清掃美化活動（浜名湖クリーン作戦参加を含む）／アマモ回収・活用／里山保全と竹資源活用／森づくり活動／干潟の活用／生物観察会／野鳥の観察・調査／浜名湖地域資源活用した商品開発（海苔など）／舟運・遊覧船／観光漁業／観光情報発信 他

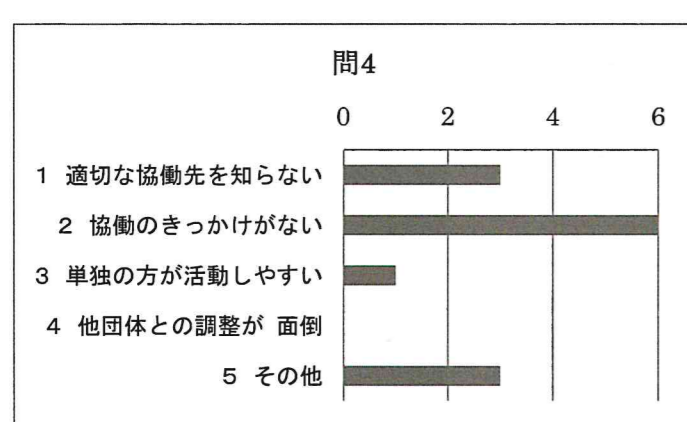
## 問2-1 「協働あり」と回答（協働の相手）



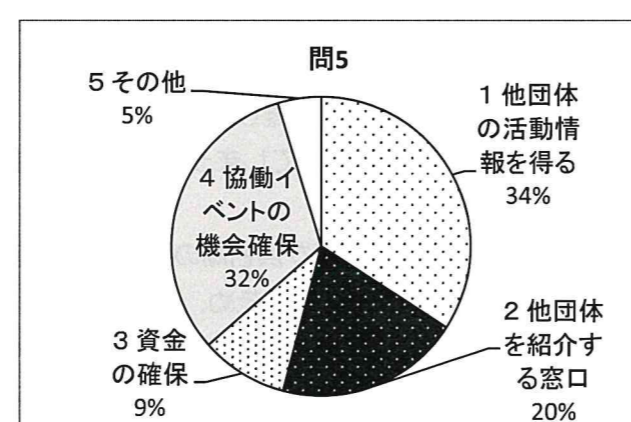
## 問3 協働内容ときっかけ

- 個々の団体の事業実施（参加者・講師・場所などの提供）
- はまなこ環境NWからの要請・依頼・事業協力（エコキッズ体験塾・現場探訪ツアー・交流会）
- 行政主催の環境関連事業
- 各種の団体が主催する交流会
- メンバーの高齢化
- 課題が大きくて単独では取組めない課題
- 専門性が必要

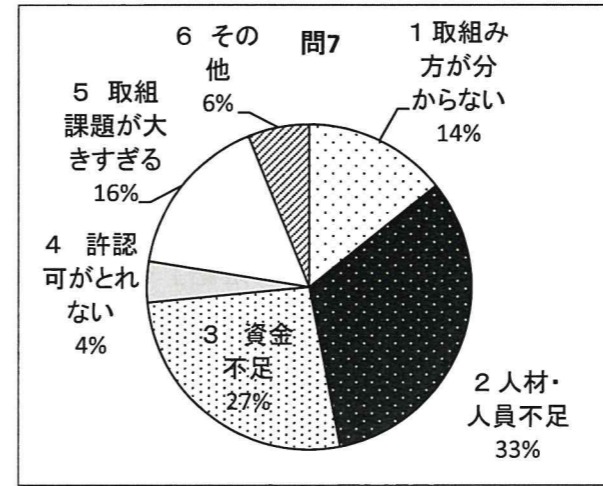
## 問4 協働する場合がないと回答した理由



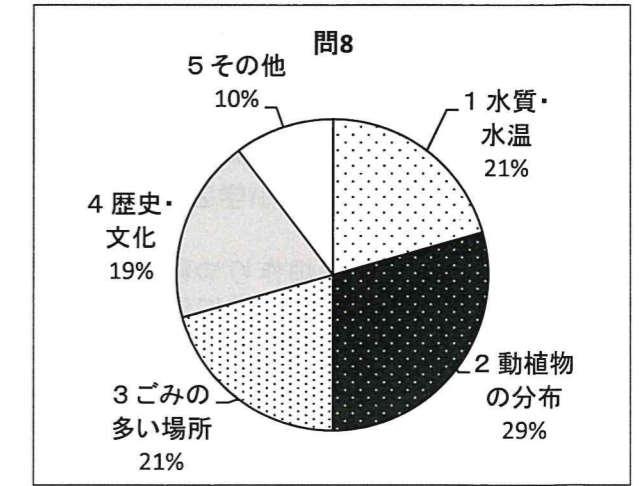
## 問5 他団体との協働の実施・促進策



## 問7 単独では環境活動に取り組めない理由



## 問8 必要と思われる浜名湖の情報の分野



## 問9 はまなこ環境ネットワークに期待する支援（自由回答）

- 環境学習：体験学習事業の実施（様々な団体の特性を活かしたもの）
- 情報：浜名湖の環境に関する情報提供、個々の団体の情報発信への支援、情報の共有化
- 調査研究：浜名湖に関するデータ収集活動や文献調査への支援
- つなぎ：他団体との連携や協働の促進（協働のイベント開催、団体のつなぎ）
- 資金と人：参加者や活動資金を得るための支援（情報、ノウハウ）
- 事務局支援：ネットワークを支える事務局自体の支援（資金面）

## 問10 浜名湖及びその周辺環境保全の課題（自由回答）

- 生態系：貴重な動植物保護、アサリやうなぎの減少、生態系の変化→外来種、海洋性魚類の被害
- 調査データ：浜名湖に関する変化がわかるデータの収集（経年変化）
- 里山保全：放置竹林や里山・森林の維持管理
- 水質環境：生活排水の流入＝水質悪化、生活ごみの流入
- 場・機会：環境学習できる場・団体の確保、学生などボランティアに参加できる機会
- 観光との連携：浜名湖のサイクリング、舟運など観光事業との連携

平成29年度浜名湖環境保全団体アンケート結果（速報）より

## ★今後の予定 3月11日(土) 浜名湖の環境保全・活用団体交流会

浜名湖の環境保全や活用を行う団体が集まり、浜名湖の環境について学び、そしてこのアンケート結果を基に今後の連携のあり方やネットワークの取組について話し合います。ぜひお気軽に参加ください。

- 日時 平成29年3月11日(土) 受付 9:30、開始 9:45～12:15
- 場所 OMソーラー社屋「地球のたまご」（浜松市西区村柳町4601）
- 内容 ①浜名湖の環境保全活動報告、アンケート結果報告  
②講演 加藤正敏氏（みなと塾代表・東三河）  
田中孝治氏（浜名湖サイクルツーリズム推進会議座長）  
③グループワークショップ（意見交換）  
テーマ「これからの浜名湖の環境保全活動とネットワーク」
- 問合せ 認定NPO法人魅惑的倶楽部 電話090-6589-7258 Eメールmaster0123@exotic-club.jp

